

令和2年度



ふくおかしの 家計簿

目次

予算とは？何に使っているの？

- 予算って何？令和2年度の予算は？……………01
- 収入(歳入)と支出(歳出)の内訳は？……………01~02
- 市民一人あたりにすると？……………03
- 予算を「家計」に例えると？……………04
- どのような事業に使うの？……………05~10

福岡市の財政状況はどんなの？

- 借金はいくらあるの？他の政令指定都市と比べるとどうなの？…11
- なぜ借金が増えたの？借金は何に使っているの？……………12
- 収入や支出はどうなってるの？……………13~14
- 福岡市の財政状況のまとめ……………14

福岡市の財政をどうやりくりしていくの？

- 財政の現状と見通しは？……………15
- 将来にわたり持続可能な財政運営に向けた取組みの方向性は？……………16
- 将来にわたり持続可能な財政運営に向けた令和2年度における取組みは？…17~18

福岡市の
令和2年度予算
財政状況
将来にわたり持続可能な財政
運営に向けた取組み
を紹介します！

1 予算とは？ 何に使っているの？

【この冊子で使われている数値は、各項目で四捨五入していることがあるため、合計などが一致しない場合があります。】

●予算って何？

福岡市に1年間に入ってくる収入を見積もり、その使い道を決めるのが予算です。つまり、みなさんが納めた税金などが、どのような事業にどれくらい使われるのかを示したものです。

●どのような予算があるの？

予算は、どの収入がどこに使われているのか、収入と支出の関係をはっきりさせるために3つの会計（一般会計、特別会計、企業会計）に区分しています。

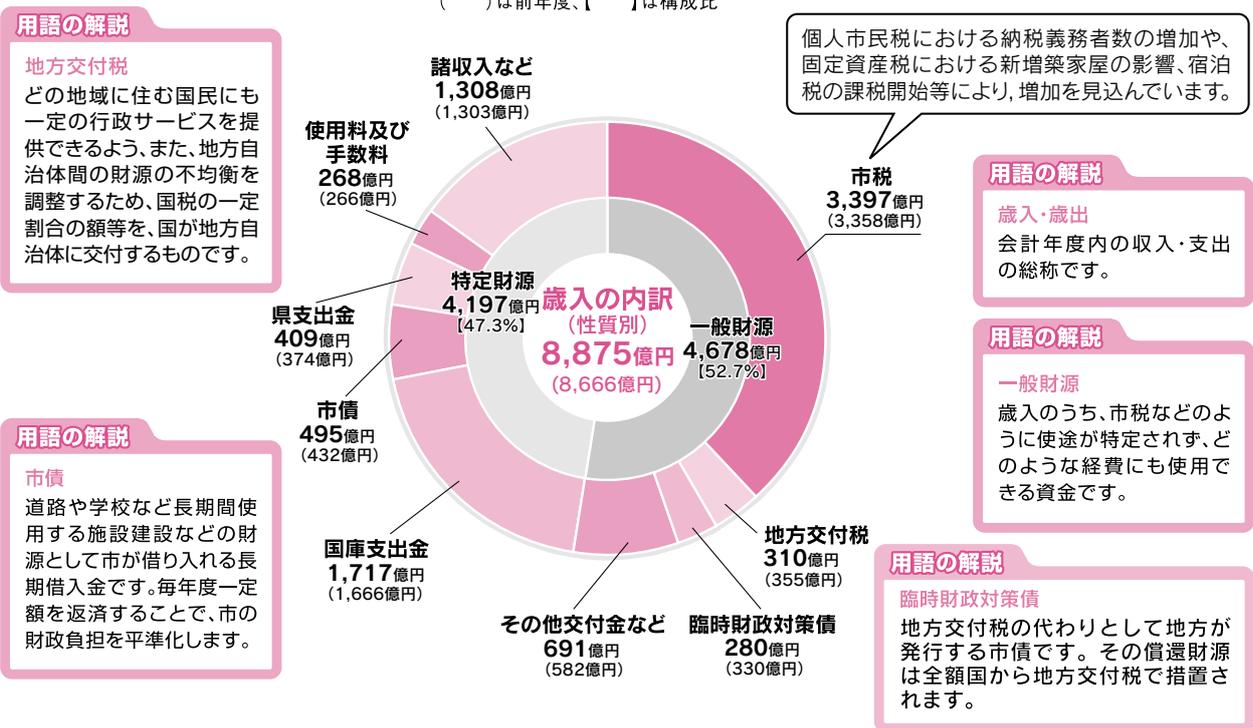
●令和2年度の予算は？（ ）は前年度

用語の解説 一般会計 福祉、教育などの行政の基本的な事業を行う会計(予算の中心)です。	◎ 全会計 1兆9,428億円 (1兆9,240億円) 前年度比 1.0%増	一般会計の予算は、過去最大の規模となっており、政令指定都市(20都市中)では、大阪市、横浜市、名古屋市、札幌市について5番目の規模です。
	◎ 一般会計 8,875億円 (8,666億円) 前年度比 2.4%増	
	◎ 特別会計 7,342億円 (7,415億円) 前年度比 1.0%減	特別会計は、使用料など特定の収入で、特定の事業を行う場合などに設ける会計です。福岡市には現在15会計(国民健康保険事業、介護保険事業など)あります。
	◎ 企業会計 3,212億円 (3,158億円) 前年度比 1.7%増	企業会計は、民間企業と同じように事業収益で賄われている会計です。福岡市には、現在5会計(モーターボート、下水道、水道、工業用水、地下鉄)あります。

●収入(歳入)と支出(歳出)の内訳は？

①一般会計の収入(歳入)

収入には、市税のほか国や県から交付されるお金や借入金などがあります。

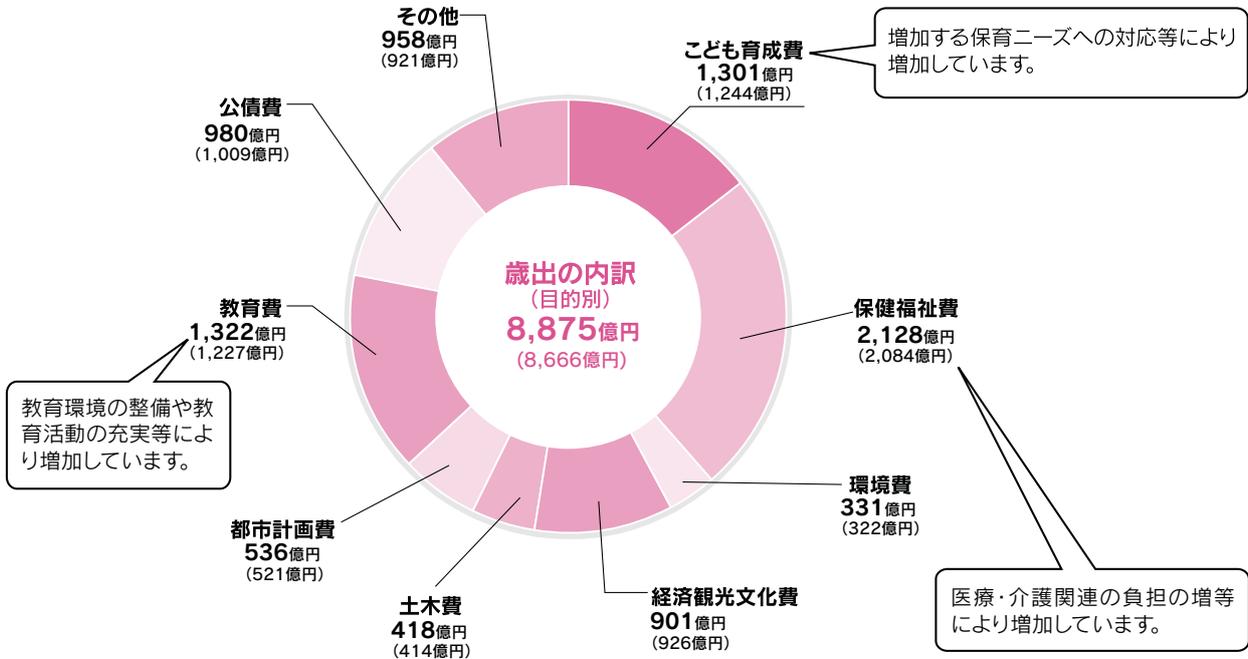


②一般会計の支出(歳出)

【目的別】

予算では、子育て、福祉など目的ごとにどれだけ使うのか定めています。

()は前年度



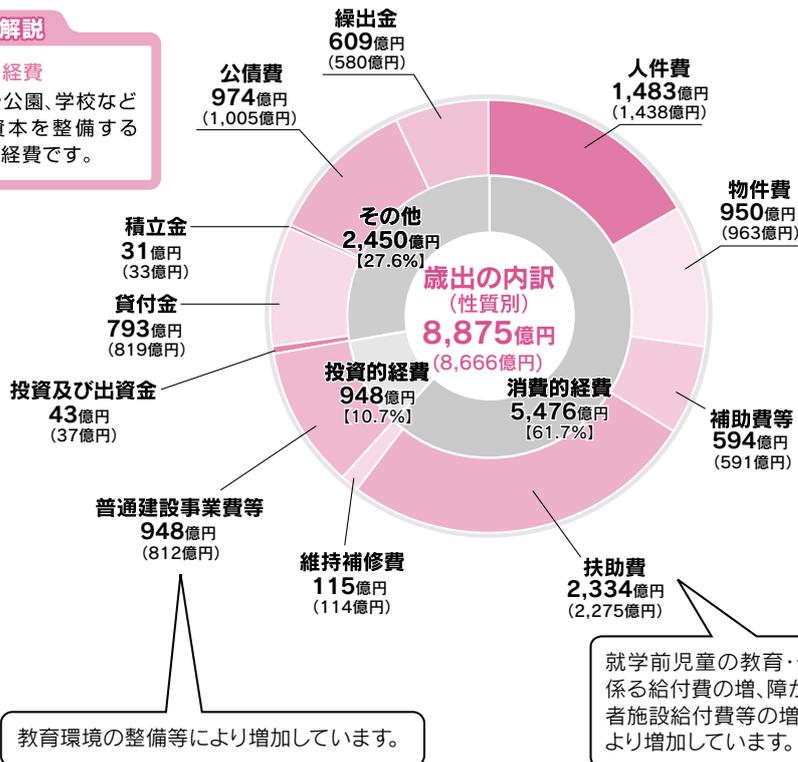
【性質別】

予算は、目的別だけではなく、人件費や物件費など性質による分類からどれだけ使うのか見ることができます。()は前年度、【 】は構成比

用語の解説

投資的経費

道路や公園、学校など社会資本を整備するための経費です。



用語の解説

物件費

光熱水費、消耗品費、施設の管理費などです。

用語の解説

扶助費

生活保護費などの医療・福祉のための経費です。

用語の解説

線出金

国民健康保険など特別会計に支出する経費のことです。

●市民一人あたりにすると？

一般会計の予算を市民一人あたりに換算すると約57万円となり、市民生活の向上や地域経済の活性化などいろいろな施策に取り組んでいます。

	令和2年度予算		
	億円	市民一人あたりの予算	
		円	(%)
保健・医療・福祉に 	2,140	137,700	(24.1%)
学校や教育に 	1,373	88,300	(15.5%)
こどもの育成に 	1,304	83,900	(14.7%)
地域経済の発展に 	1,025	65,900	(11.5%)
道路・住宅・計画的なまちづくりに 	865	55,600	(9.7%)
行政の運営に 	647	41,700	(7.3%)
災害に強いまちに 	426	27,400	(4.8%)
清潔なまちに 	339	21,800	(3.8%)
地域活動・文化・スポーツに 	306	19,700	(3.5%)
地下鉄・水道事業の支援に 	192	12,300	(2.2%)
公園整備や緑の保全に 	169	10,900	(1.9%)
新鮮で安全な食料の提供に 	89	5,700	(1.0%)
合計	8,875	571,000	(100.0%)

高齢者も障がい者も誰もが住みやすいまちづくりを進めます。

新たな保育ニーズへの対応など、健やかな子ども育成に積極的に取り組みます。

地域コミュニティの活性化など、支えあいつながりのあるまちづくりに取り組みます。

市民一人あたりの予算約57万円は、20政令指定都市中、3番目の多さです。

※令和元年12月末現在の人口(155万4,229人)で割っています。
 ※()内は、構成比を示しています。

●予算を「家計」に例えると？

一般会計の予算(8,875億円)を年間の収支が500万円(1月あたり41万6,000円)の家計に置き換えて説明します。

給与のうち、基本給の多くが市民の皆さんが納めた市税です。
諸手当のうち、地方交付税は、どの市町村も標準的なサービスを受けられるよう地域間格差を解消するため、国から交付されるものです。
また、国・県支出金は、生活保護や道路整備など市の事業の一部を国や県が一定割合を負担するものです。

ふくおか家・1カ月の家計簿

《収入》

給与	33万9,000円
（うち基本給 （市税などの自主財源） 諸手当）	19万8,000円 14万1,000円
銀行からの借入 （市債）	3万6,000円
貸したお金の返済金 （貸付金元利収入）	4万1,000円
計	41万6,000円

《支出》

医療費・保育料など （扶助費）	10万9,000円	} 義務的経費
ローンの返済 （公債費）	4万6,000円	
食費 （人件費）	7万円	
光熱費や通信費など （物件費）	4万6,000円	
家・車・電化製品の修理・買い換え （維持補修費、普通建設事業費等）	5万円	
家族への仕送り （繰出金、補助費）	5万6,000円	
友人などへ貸すお金 （貸付金等）	3万9,000円	
計	41万6,000円	

ローンを4万6,000円返済する一方、
新たな借入は3万6,000円に抑えました。
借金残高を減らす努力をしています。

医療費・保育料など(扶助費)、ローンの返済(公債費)、食費(人件費)、の3つは、「義務的経費」と呼ばれています。

これが多いのは、一般家庭のエンゲル係数(家庭における食費の占める割合)が高いことと同じで、家計にあまり余裕がないことを意味します。ちなみに、福岡市の歳出総額に占める義務的経費の割合は、54.0%となっており、政令市平均の58.2%と比べると、やや低い状態です。

●どのような事業に使うの？

「都市の成長」と「生活の質の向上」の好循環を確固たるものとし、福岡市を次のステージへと飛躍させるチャレンジを加速させるため、以下の事業等を実施します。

「生活の質の向上」を実感できるまち

保育環境の充実

第3子優遇事業の拡充

2億3,269万円

子育てにかかる経済的負担を軽減するため、保育所に通う第3子以降の児童を対象としていた副食費の助成を、幼稚園及び企業主導型保育施設等に通う児童にも拡大します。

保育体制強化事業

4億9,500万円

園外活動中の児童の安全確保や保育士の負担軽減を図るため、民間保育所等に対し、保育支援員配置費用を助成します。



障がい児保育充実事業

5,725万円

障がい児1人に対して保育士1人を配置する加配制度の導入及び補助単価の充実を行います。

医療的ケア児受入促進

2,120万円

民間保育所等での医療的ケア児の受入促進のため、看護師配置費用等を助成します。



親子支援の充実

産前・産後母子支援事業

2,635万円

支援を要する妊産婦に対する妊娠期から出産後までの切れ目ない支援体制を構築するため、児童福祉施設に支援コーディネーター等を配置します。



産婦健康診査

9,963万円

産婦の状況を把握し必要な支援につなげるため、健診費用を助成します。(5,000円×2回)



NPOとの共働による子どもショートステイ受け入れ

553万円

育児不安や育児疲れの負担軽減を図るため、NPO法人との共働によるショートステイ受け入れ専用枠を新たに設置します。



不育症検査費・治療費助成事業

220万円

妊娠しても流産や死産を繰り返す不育症の検査・治療に要する費用を助成します。



教育環境の充実

特別教室への空調整備

2,578万円

健康で快適に学習できる環境を整えるため、市立小・中学校の全ての特別教室への空調整備に向けた調査・検討に取り組みます。



学校のICT環境整備の推進

5億5,330万円

日常的な教育へのICT活用に向け、普通教室へのICT環境整備を進めるとともに、児童生徒1人1台端末の整備を行う「GIGAスクール構想」の実現に向け取り組みます。



誰もが安心して暮らしやすいまちへ

重度障がい者グループホーム 受入促進事業

2,512万円

グループホームにおいて、重度障がい者を受け入れるために必要な運営費を補助します。

在住外国人の生活環境整備事業

3,961万円

転入手続き時の生活ガイダンスの実施や、区役所等における多言語対応の充実を図るとともに、地域における外国人住民との交流を支援し、相互理解を促進します。



民生委員

3億3,719万円

民生委員が活動しやすい環境づくりに向け、活動費の増額や欠員地区対策及び研修等への支援を拡充します。



繁華街における悪質な客引き対策

2,522万円

悪質な客引き行為等の対策として、繁華街に防犯カメラを設置し、指導員による巡回指導及びAIを活用した実証実験を実施します。



「福岡100」の推進～人生100年時代に向けて～ 福岡100

AIを活用した「ケアプラン作成システム」 構築事業

8,720万円

AI・行政データ等の活用により、エビデンスに基づく効果的なケアプランを作成し、健康寿命の延伸を目指します。



認知症フレンドリーシティ・プロジェクト NEXT

3,060万円

認知症の人の「支援」から「活躍」のステージへステップアップを図るため、認知症の人がスタッフとして働くDカフェ（仮称）の開設などを行います。

多彩な人が集い「チャレンジ」できるまち

多様な人が集うおもてなしの街

観光案内機能の強化事業

2,068万円

大規模イベント等に
あわせて観光案内の充実
を図り、福岡市の魅力を
発信します。



公衆無線LAN環境整備事業

7,631万円

観光客の利用が多い交通
拠点において、公衆無線
LANサービス「Fukuoka
City Wi-Fi」の通信品質向上
を実施します。



宿泊事業者受入環境充実の支援

3,636万円

宿泊施設における多言語対応や災害対応
の設備等の受入環境の充実を支援するととも
に、宿泊事業者の人材確保・育成等を支援しま
す。

観光客等の移動円滑化施策の推進

9,338万円

観光客等の移動
円滑化に資する地
下鉄駅昇降機等の
整備を推進します。



<博多駅筑紫口エスカレーター
設置イメージ(B1F)>

Society5.0(超スマート社会)へのチャレンジ

Society5.0を支える AIエンジニア支援事業

567万円

Society5.0実現に重要な役割を担うAIエン
ジニアを人材育成等により支援します。

スマートシティ推進事業

1,636万円

AIやIoTといった先端技術等を活用した民
間提案等を支援し、社会課題の解決や行政事
務の効率化・高質化
に取り組みます。



※Society5.0…先端技術を社会生活等に取り入れることにより、様々な社会課題を解決する試み

市街化調整区域の活性化

Fukuoka East & West Coast プロジェクト

4億4,193万円

海辺の観光周遊コースの形成に向けて、写
真を撮りたくなる立ち寄りスポットづくりや自
然環境と調和した道
づくりなど、ソフト・
ハード面から魅力向
上に取り組みます。



農福連携推進事業

229万円

農業者と福祉事業者の
意見交換会、先進地視察
等を実施し、障がい者等
の農業分野での就労を促
進します。



「都市基盤」が充実し、次の世代のために歩むまち

災害に強いまちづくり

災害時の電力確保

1億420万円

公民館等167館に施設の一部の照明やテレビ等が利用できるよう、電気自動車等から電力供給するための設備を整備するなど、災害時の電力確保に取り組みます。

大規模停電発生時の給水確保

1億7,235万円

大規模停電発生時にも安定した給水を行うため、水道施設へ非常用発電機を設置します。

災害時の観光客対応強化事業

885万円

宿泊事業者等と連携した災害時の観光客への情報発信や安全確保対策を行います。

救急隊の増隊

3,369万円

都心部の救急需要増加に対応するため、博多消防署に救急隊を増隊します。



脱炭素社会へのチャレンジ

次世代モビリティサービス実証支援事業

2,000万円

運輸部門の温室効果ガス排出量の更なる削減を図るため、ICT・AI等の先進技術を活用した実証事業を支援します。



マイボトル用「給水スポット」の設置

1,760万円

プラスチックごみ削減及び熱中症の予防のため、マイボトル用「給水スポット」を設置します。



未来に向けて生まれかわるまち

天神ビッグバン賑わい創出事業

500万円

エリアマネジメント団体等と連携しながら、天神地区の賑わいを創出します。



博多駅筑紫口駅前広場の再整備

5億9,000万円

博多駅筑紫口において、市民や来街者にとって、さらに安全で使いやすい駅前広場にリニューアルします。



ウォーターフロントネクスト

11億1万円

「MICE」「クルーズ」「賑わい」が融合したまちづくりの検討やマリニメッセ福岡B館の整備などを行います。

<関連>周辺道路の整備
8,900万円(築港石城町線等の整備)



九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくり

19億9,302万円

箱崎キャンパス跡地の先進的なまちづくり及び都市基盤整備の取り組み等を行います。



各区のまちづくり

東区

公民館を拠点とした 外国人交流促進事業

49万円

外国人が多く住む東区の特徴を踏まえ、「公民館」を拠点として、地域在住の日本人と外国人との交流事業を実施し、お互いの文化や考えなどを知り合うことで、交流の促進を図ります。



リサイクル推進事業

19万円

区民のリサイクル意識向上を図り、ごみ減量につながるため、地域集団回収や貴重な紙資源である雑がみリサイクルの取組みを推進します。



博多区

地域密着型の集客・まちづくり事業

444万円

「博多秋博」、「和の博多」など、企業や地域住民と連携した博多の魅力発信、集客力向上の企画を実施します。また、独自の観光パンフレットなどによる観光情報発信を行います。



博多区企画推進事業 (専門学校との共創)

64万円

博多区内に多く立地する専門学校と地域を結び、学校の専門性と学生の活力を地域活動に活かす取組みなど、区の特徴を活かし「共創のまちづくり」を推進します。



中央区

地域産木材を活用した中央区役所 玄関前広場の整備

1,407万円

区役所玄関前広場をすべての人が安心して快適に利用できるデザインに改良するとともに、地域産木材を積極的に利用することで、地球温暖化対策への理解を深めていただくための広報啓発の場としても活用します。



中央区安全・安心フェスタ2020

279万円

防災・消防・防犯・交通安全をテーマに、専門家が中央体育館に集結。

楽しみながら、自身や家族を守る「自助」を学び、考える、体験型イベントを開催します。



南区

地域の「きずな」づくり事業

～多様な主体による支え合いの構築～

80万円

医療や介護サービス事業所等のネットワーク(南区いいともネット)と地域が連携した高齢者の見守りや在宅医療の推進、生活支援や介護予防、認知症の啓発などの取組みを進めます。



地域防災支援事業

278万円

校区独自の避難所運営マニュアルの作成及び訓練を支援するとともに、外国人や高校生に防災講座等を実施することで、防災の担い手を育成し、地域防災力の強化を図ります。

